

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金 研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [椎名蓮]

学年・組・番号 [3 年 L 組 7 番]

研究課題： 対馬における伝統養蜂の課題と展望 ―自然・文化・経済からの総合的考察―

(英文) Challenges and Prospects for Traditional Beekeeping on Tsushima Island:
A Comprehensive Examination from Natural, Cultural, and Economic Perspectives

研究概要：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

本研究は、長崎県対馬市において古くから継承されてきた在来種ニホンミツバチによる伝統養蜂の現状を分析し、地域創生に向けた課題と展望を考察したものである。対馬は大陸と日本列島の間位置し、固有の生態系を有している。当地の養蜂は、野生に近いニホンミツバチを「蜂洞」と呼ばれる独特の木製巣箱で飼育する点に特徴がある。その蜂蜜は希少で高価である一方、社会的認知度は高くない。現在、島内では人口減少と高齢化により技術継承が危惧されるほか、外来種ツマアカスズメバチの侵入、他地域からのミツバチ導入による遺伝子攪乱、病原体持ち込みによる感染リスクなどの環境的脅威にも直面している。本稿では、対馬の自然環境および養蜂文化の特色を整理したうえで、蜂蜜の抗菌活性実験による品質評価を行い、伝統の保全と商業化、さらに移住者支援を通じた地方創生の可能性を自然・文化・経済の三側面から総合的に論じた。

研究成果：

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

研究の結果、対馬産蜂蜜は多様な蜜源に由来する深い風味を持ち、糖度が比較的強く、あっさりとした味わいであることが確認された。抗菌活性実験では、セイヨウミツバチの蜂蜜と比較して抗菌力が低い傾向が見られ、食品保存用途よりも味の個性を生かしたブランド化が有効であると示唆された。商業化においては、生産量に限界があるため「多売」ではなく、希少性を強みとした「高単価・少量販売」の戦略が妥当である。最大の課題は対馬そのものの知名度の低さであり、SNS やテレビ番組等による情報発信を通じた認知拡大が急務である。今後は、行政主導による在来種のデジタル化や技術継承体制の整備が必要である。また養蜂を切り口として、IT インフラ整備やリモートワーク環境を整えることで、自然志向の若年層や起業家を呼び込む「徳島県神山町」のような地方創生モデルの構築が期待される。養蜂を島の環境・文化・経済を映す鏡として捉え、総合的な保全策を講じることが重要である。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 椎名蓮

研究分担者 須磨結生 境野史人

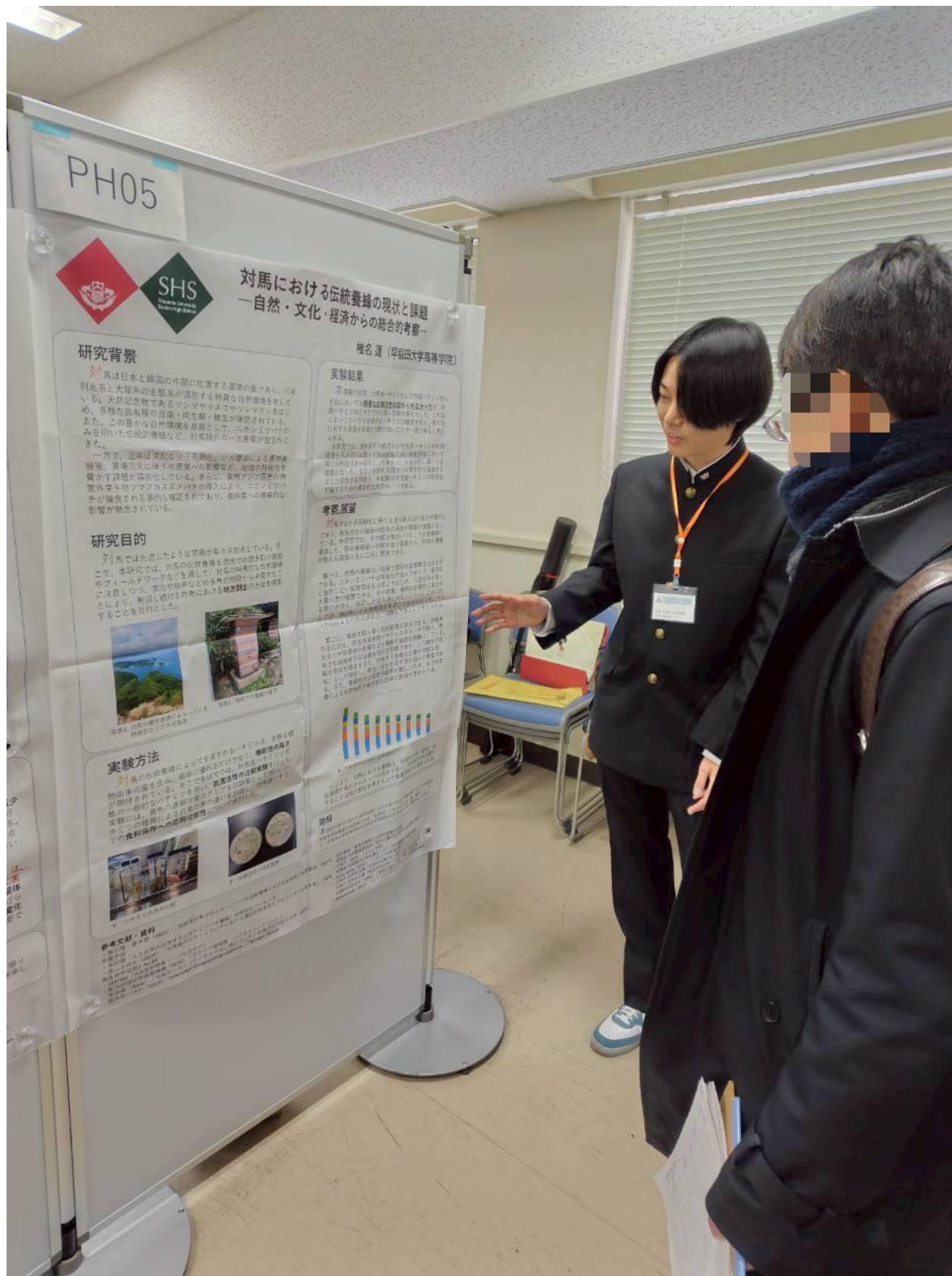
担当教諭 秋山和広

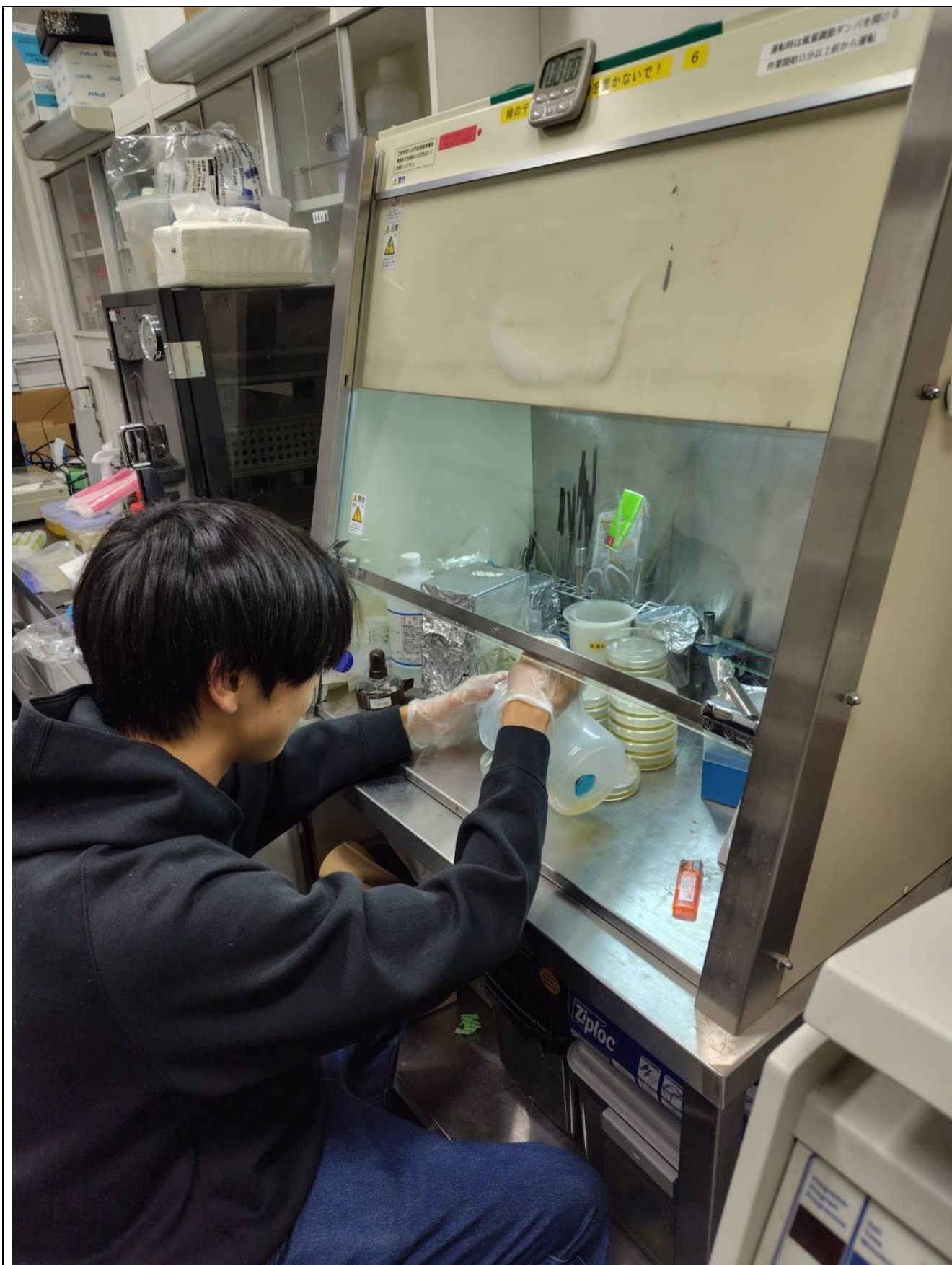
（受給額：23000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)





以上